

ミスベリングもてなし勉強会in笛吹市

～地域の資源を磨くことで「もてなし力」がつく～

日時：平成28年2月23日（火） 14:00～18:00

場所：笛吹市 石和源泉足湯ひろば

主催：笛吹市 経営企画課 観光商工課

後援：国土交通省 甲府河川国道事務所

富士川水系ミスベリング・プロジェクトHP

<http://www.ktr.mlit.go.jp/koufu/koufu000517.html>

参加：石和温泉協会会員

プログラム

1. あいさつ 笛吹市観光物産連盟 窪田克一国際観光戦略監

2. 講演

もてなしという観点からの地域整備

「ホスピタリティ・ディベロップメント」という考え方

講師 東京大学 地域資源計画学研究室教授 堀 繁

3. ワークショップ

※さくら温泉通りを歩いて講演内容を解説

講師 東京大学 地域資源計画学研究室教授 堀 繁

■問い合わせ先

笛吹市 経営企画課 観光商工課 055-262-4111

笛吹市ミスベリング構想HP

http://www.city.fuefuki.yamanashi.jp/shisei/info.php?cat_id=124



石和源泉足湯ひろば

<笛吹観光ナビHP>

http://www.fuefuki-kanko.jp/detail/index_229.html



2015年12月23日開催
近津用水 イルミネーション
実験イベント

主催：フェリス女学院大学
協力：笛吹市、甲府河川国道事務所、笛吹市ワイン会、笛吹市観光物産連盟、笛吹市商工会、さくら通り会、石和温泉旅館協同組合、石和温泉観光協会



近津用水イルミネーション
2016年1月30日～4月1日

地域の資源を磨くことで「もてなし力」がつく ～ほんものの地域活性化を考えよう～

講師紹介

堀 繁 ほり しげる

東京大学地域資源計画学研究室教授

1952年生まれ。環境庁自然保護局主査、東京大学農学部助手、東京工業大学社会工学科助教授などを経て、1996年より現職。国土審議会、歴史的風土審議会の各専門委員の他、多数の委員等を歴任。地域の発展を前提とした景観、アメニティ、観光リゾート、自然環境保全の計画設計を中心課題としている。

出典：ミツカン水の文化センターホームページ「水の風土記」

http://www.mizu.gr.jp/fudoki/people/027_hori.html



.....<<<抜粋記事の紹介>>>.....

ホスピタリティ・ディベロップメント

一番大事なことは、もてなしという観点からの地域整備です。僕は「ホスピタリティー・ディベロップメント」と呼んでいまして、その具体的な形をホスピタリティー表現と呼んでいます。

「私たちがそこへ行ってみたい」と思うのはどういった場合でしょうか？

一つは「行ったことがないから見てみたい」という動機が考えられます。「白川郷を見たことがないから、行ってみたい」。これは大きな動機ですが、一回行くと、「見たことがない」という状態は解消されますから、二回目の誘引動機にはほとんどなりません。

もう一つは、「行くと楽しい」という動機です。例えば「表参道に行くと、何か楽しい」というケース。楽しいという体験は、一度で満足することはありません。「今度は家族連れて行こう」、「今度は友達と行こう」、「今度は秋行ってみたい」、「また行きたい」というように、楽しい体験は、持続してリピートになる。

こうした楽しい体験を生むのは、「歩いてみたい道」「のぞいてみたいお店」「ゆったりくつろげる休憩スペース」等です。つまりは、「私のことを、とても大事にもてなしてくれるという雰囲気」、それがホスピタリティー表現ということなんです。

あるものを光り輝かせるためには、それを核として、来訪者をゆっくりとそぞろ歩きさせる道の整備や、見ているだけでも楽しい店舗や旅館をつくるか、美味しいコーヒーを飲ませる滞留拠点をつくる等々が必要で、それらを実現するためのことがすべてノウハウなんです。



写真A: 車道よりも狭い歩道幅員
人を大切にしていないことが伝わる



写真B: 車道よりも広い歩道幅員
人を大切にしていることが伝わる